

公益財団法人 国立京都国際会館 広報誌

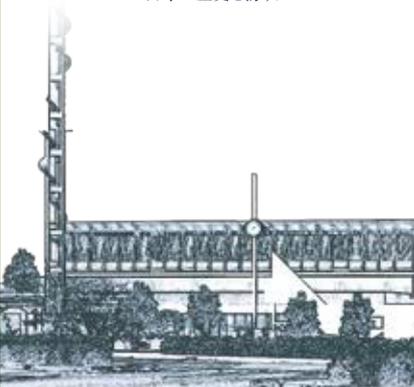
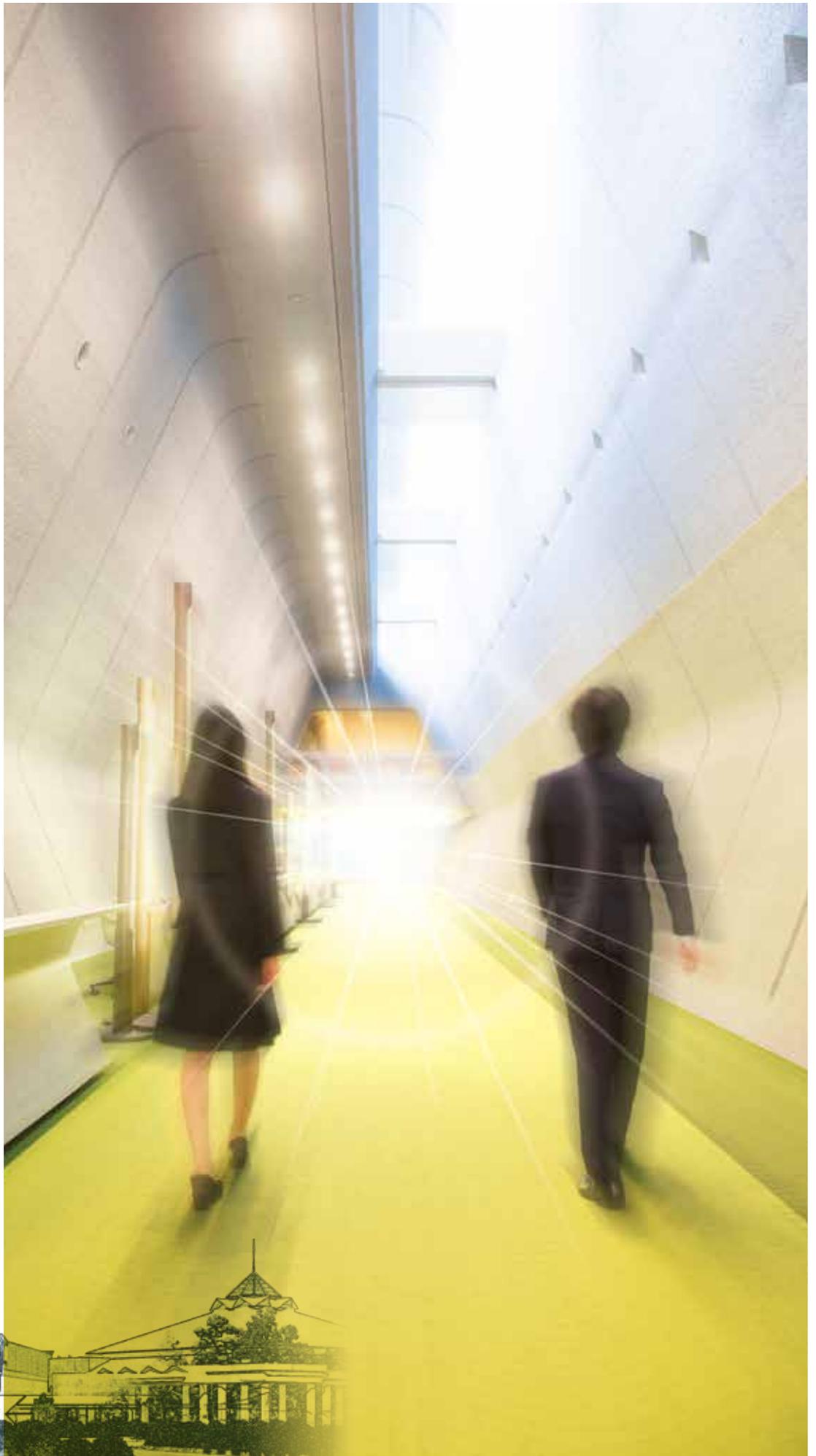
ICC

Kyoto

2017  
Winter

ICC Kyoto  
50<sup>th</sup>

Beyond 50th Anniversary  
～ 50年の歴史を誇りに～



Kyoto International Conference Center

# 東京と地方がしっかりとビッグイベントを契機に ラグを組み合わせスポーツを文化へ



スポーツ庁 長官  
鈴木 大地 氏  
Daichi Suzuki

**Profile** 1967年千葉県生まれ。1988年ソウルオリンピックの100m背泳ぎで金メダルを獲得。順天堂大学大学院体育学研究科コーチ学専攻修了後は、順天堂大学教授、公益財団法人日本オリンピック委員会理事、公益財団法人日本水泳連盟会長等を歴任。2015年に初代スポーツ庁長官に就任。

インタビュアー  
木下 博夫 Hiroo Kinoshita

**Profile** 1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長等を経て、2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

## 国際競技大会の開催で “文化としてのスポーツ”へ

**木下博夫館長(以下、木下)** 2016年10月、京都と東京を会場とし、文部科学省主催で「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」が開催されました。率直なご感想をお聞かせください。

**鈴木大地氏(以下、鈴木)** 今回のイベントでは、文化関連イベントは京都で、スポーツに関しては東京でといった形でプログラムが組まれました。東京では、世界35カ国のスポーツ大臣をはじめ69カ国の代表者にご参加いただき、スポーツの可能性について貴重なご意見・ご要望を頂戴することができました。アジアではこれから4、5年の間に、スポーツのビッグイベントの開催が控えていますが、それに向かってよいムードが醸成されたのではないかと考えています。

**木下** スポーツのビッグイベントと言えば、2019年に「ラグビーワールドカップ2019」、2020年に「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」、2021年には「関西ワールドマスターズゲームズ2021」が、わが国で開催されますね。

**鈴木** 先ほどから、“スポーツと文化”と分けて申し上げていますが、スポーツもまた文化の一部。“文化としてのスポーツ”をこの国にどう根付かせていくのか。これが、私たちスポーツ庁の大きな課題だと考えています。そういった意味では、こうした、連続して日本国内で開催されるスポーツの国際的な祭典を、スポーツを文化にしていく大きなチャンスにしたいですね。

## 競技者養成に留まらない 「鈴木プラン」の目的

**木下** スポーツ庁では、「競技力強化のための今後の支援方針(鈴木プラン)」を掲げておられます。プランの内容からは、単に各競技の強化策を講じるだけでなく、国民全体がスポーツを楽しみ、喜びにしてほしいという長官の強い意思がにじみ出ているように感じますが。

**鈴木** おっしゃる通りです。確かに、主要な国際大会で金メダルを取るような選手を輩出し続けることは、ひとつの大きな目的はあります。しかし、そのことによって、国民の皆さんが「よし!スポーツをやろう」という気持ちになることのほうがより重要なのです。また、例えば、F1がよい例ですが、高度な次元での技術開発の熾烈なせめぎ合いは競技レベルを引き上げ、後々、そのスキルや理論だけでなく、末端の関連用品なども含めた車業界全体により影響を及ぼします。これと同じで、スポーツ分野においても、各競技の最高峰で切磋琢磨された技術が集積されることによって、結果としてスポーツを楽しむ一般の方々の生活にも恩恵をもたらすと考えています。2020年は大きなゴールではありますが、ひとつの通過点に過ぎません。開催までに強化のイメージを大まかに形づくり、その次の世代にいかにかかりつなげることができるのか、そのための提言が「鈴木プラン」なのです。私たちスポーツ庁の仕事は、ひとりで表現しますと“スポーツで人を育てる”ということになろうかと思えます。ただこれは、何か目に見える形で成果を出しにくいところがあります。難しいミッションではありますが、継承が大切だと基本姿勢で、今後も継続してプランを実行に移し

ていこうと考えています。

**木下** 関西では、全日本女子バレーボールチームの元監督・柳本晶一氏や、陸上界で指導者として活躍されている朝原宣治氏が中心となって、「アスリートネットワーク」という団体を立ち上げ活動しておられます。スポーツを通して、非常に幅広い社会貢献活動を行ってられるのが特徴的です。

**鈴木** スポーツによる人づくり、地域の活性化という観点からみても、そういった動きが関西で活発だということについては、非常に喜ばしいことですね。

## 東京と地方との 強固な連携が スポーツ文化定着の鍵

**木下** その関西では、2021年に徳島・鳥取を含めた関西圏のエリアを会場に「関西ワールドマスターズゲームズ2021」が実施されます。この大会は記念すべき10回目、かつ、アジア初の開催となります。これを機に、競技とは別にエクスカージョンを実施するなど、各地域の文化や産業などを世界の人々に知っていただくための工夫も必要だと考えますが、いかがでしょうか。

**鈴木** 同感ですね。競技者の方だけでなくそのご家族・知人などもあわせると、何十万人の方々が当該エリアを訪れることとなります。これは単純計算で、オリンピックの実に10倍。関西地域は、京都をはじめ、文化面だけでなく景勝においても実にバラエティに富んでいて魅力的な地域が多いので、来訪者の方々にも大いに



楽しんでいただけるのではないのでしょうか。今後、国が目標とする訪日外国人旅行者数(インバウンド)は、2,000万人から4,000万人とされています。日本各地でこうした国際大会が開催されることで、東京だけでなく日本全体にその恩恵が行き渡ればよいと考えます。スポーツ庁としても、スポーツイベントを日本のファンになって何度もリピートして訪日していただくためのきっかけとして捉え、その方策を今後も打ち出していきたいですね。

**木下** 国立京都国際会館としても、今後はスポーツを文化として育てる一助となるべく、スポーツや健康分野といった方面の企画にも手を広げていきたいと考えています。

**鈴木** 京都は、日本の伝統が息づく古都です。武道など固有のスポーツを紹介するような企画を実施すると、外国人の方にも興味を持っていただけるのではないかと思います。それこそ、スポーツを文化として紹介できる最良のコンテンツになるのではないのでしょうか。2019年、2020年と盛り上がって2021年にはその頂点を迎え、スポーツが文化として日本に永続的に定着する。こうした着地点につなげるためには、東京と地方が一体となって行動していくことが不可欠です。ぜひ、ご協力をお願いします。

**木下** もちろんです。国立京都国際会館も、ともにスポーツ文化の成長を担うため頑張っていきたいと思えます。

(文中敬称略)



巻頭インタビュー  
Interview

2015年10月1日、スポーツ行政を総合的・一体的に行うことを使命とし、スポーツを通じた社会の発展を目指して「スポーツ庁」が創設されました。初代長官には、ソウルオリンピック金メダリストであり後進の育成に尽力してこられた鈴木大地氏が就任しました。スポーツ庁1周年目となる2016年、「競技力強化のための今後の支援方針(鈴木プラン)」を発表した鈴木長官に、庁としてのスポーツ支援について、また、日本におけるこれからのスポーツのあり方などについてお話を聞きました。

# 日本発の英知を世界へ そして未来へ

2016年12月13日(火)、国立京都国際会館にて、「国立京都国際会館50周年記念シンポジウム ～日本発の英知を世界へ そして未来へ～」の様子をご紹介します。

## 50周年記念シンポジウム 国立京都国際会館

国立京都国際会館は、日本初の国立の国際会議場として開設以来、グローバルな相互理解を推し進める役割を果たしてきました。今後、国際会議を通じて、日本の存在感をさらに高めるためにはどうすればよいのか。その役割や意義を改めて考察することを目的に、50周年記念シンポジウムを開催しました。



挨拶  
公益財団法人  
国立京都国際会館  
理事長  
稲盛 和夫

シンポジウムに先立ち、国立京都国際会館の稲盛和夫理事長より挨拶が述べられました。稲盛理事長は、開館50周年のなかで特に印象的だった国際会議として、1997年に開催された「地球温暖化防止京都会議(COP3)」を挙げ、紆余曲折がありながらも最終的には「京都議定書」が採択され、温暖化防止の歴史に「Kyoto」の名前を刻むことができたことや、連日連夜にわたる会議の合間に、宝ヶ池の自

然あふれる風景に参加者が和んでおられた様子など、印象的な後日談を披露。1966年に、日本初の国際会議場としてオープンした本館の歴史を総括する内容となりました。

そのなかで、2018年には、待望のニューホールの一部が完成予定であることについても報告されました。それを踏まえ、これまでの実績におごることなく精進していくことを宣言。このシンポジウムを「50周年の歩みを振り返り今後のあり方を議論する場に」との期待を込めてメッセージされました。

### 特別講演 「国際会館の未来へ」

稲盛理事長の挨拶に続いては、裏千家15代・前家元である千玄室氏が登場。特別講演が行われました。講演の中では、「わが子が立派に成長したようで喜ばしい」と祝辞を述べられ、

京都という魅力あふれる都市の会議場としての利点のほか改善点も示されるなど、卒寿を超えてもなお自由闊達な意見を呈示。会館に対する大きな期待をにじませるものとなりました。

### パネルディスカッション 「国際会館の半世紀と「これから」」

続いて、国立京都国際会館の木下博夫館長をコーディネーターに、京都大学の名誉教授で、関西健康・医療創生会議議長の井村裕夫氏、株式会社堀木エリ子&アソシエイツ代表取締役の堀木エリ子氏、株式会社堀場製作所代表取締役会長兼社長の堀場厚氏、日本政府観光局(JNTO)理事長の松山良一氏の計5名によるパネルディスカッションが実施されました。

前半冒頭は、開館以来、17,000件の会議を開催し1,140万人が利用したことなど、木下館長が開館50周年の歩みの概況を説明。次に、

各パネリストにスライドなどを用いて会館の印象やあり方などを語っていただきました。後半は、今後の課題についての意見交換が行われました。

そのなかでは、京都という日本文化の集積地にある利点を活かし、もっと国際会議を絡めたMICE(Meeting, Incentive, Convention, Exhibition/Event)の誘致を進めるべき、あるいは、最新機器の導入や周辺ホテルの充実、よりスムーズなアクセスを実現する工夫などのハード面の整備、官民産学が一体となった“オール京都”での対応が図られるべきなどの意見が交わされました。

また、国際会議そのものについても、大規模な会議だけでなく、中小規模のクラスにもフレキシブルに対応すべきなどの意見も異口同音に提案されました。何より、広く一般社会の要望に応える未来志向の会館であってほしい。パネリストの方々の、そうした熱い想いを感じさせるシンポジウムになりました。



### パネリスト

## これからの国立京都国際会館の新しい歩みに期待しています



京都大学名誉教授  
関西健康・医療創生  
会議議長  
井村 裕夫氏

グローバル化が拡大し、異文化間の摩擦が増えると予想される今日の社会では国際会議の重要性は増すばかり。若い研究者や一般の方々が気楽に参加できる会議や企画を検討する時期にきていると感じますので、さらなる会館の機能的な充実を期待します。



株式会社堀木エリ子&  
アソシエイツ  
代表取締役  
堀木 エリ子氏

国際交流、特に、文化的な交流を促す企画・イベントを積極的に開催するなど、日本文化の発信拠点としての会館に期待しています。同時に、サービスの質をさらに高めるよう努力していただきたいと思います。



株式会社堀場製作所  
代表取締役会長  
兼社長  
堀場 厚氏

会館は、当社の周年記念行事を開催するなど縁が深い施設。国内外の大会議場にはない、京都らしさを打ち出し、世界のリーダーたちの琴線に訴える迎賓館のような国際会議場を目指してほしいと思います。



日本政府観光局  
(JNTO) 理事長  
松山 良一氏

増加するインバウンドを見越し、会議の開催だけでなくMICE分野への積極参入など、より多角的な視点が必要。施設・設備のアップグレードを図り、会議規模や価格帯の幅を広げる柔軟な姿勢が求められるでしょう。

### 特別講演



裏千家15代・前家元  
千玄室 氏

私は長年、国立京都国際会館の理事を務めました。敷地内の茶室「宝松庵」は実弟が設計し頻りに茶会も開催するなど、大変ご縁がございます。その会館も50周年。自分の子どもが大きくなったような、何とも感慨深い気持ちであります。

最近、「おもてなし」という言葉が盛んに使われていますが、どうも本来の意味とは異なり、力が入りすぎているように感じます。例えば、さりげなく一服のお茶を相手に差し出すような心配りにこそ神髄があるのです。そうした日本の心の素晴らしさを、今後来訪者に感じてもらえる会館であってほしいと願っています。

### コーディネーター



公益財団法人  
国立京都国際会館館長  
木下 博夫

国立京都国際会館だけでなく、宿泊施設やアクセスなどの課題にも配慮して関西が一体となって産官学で連携し、よりよい開かれた国際会議場として発展できるよう今後も邁進していきたいと思っております。

さりげない「おもてなし」を

国立京都国際会館 開催会議

開催報告

第40回国際外科学会世界総会

2016年10月23日(日)～26日(水)

会期中には、世界各国約30ヶ国、約2,000名が秋の京都に集合。メインテーマを「心」とし、温情溢れる心を込めた外科治療について、活発な議論が交わされました。

2日目からは、本格的な学術プログラムがスタート。その中で、国際外科学会は「新しい科学技術が導入され医療のあり方が変化してきている現在、新しい医療技術の実施導入に際しては医療の原点を忘れることなく、医師が十分に医療倫理を守り患者さんの心を考慮に入れたPatient firstの外科医療を推進してゆくことを宣言する」とした、「京都心の宣言」が発信されました。その後の開会式では、天皇皇后両陛下や内閣府特命大臣など多数のVIPの御臨席を賜りました。

3日目には、特別講演として、「中性子捕捉療法」の将来展望や、「再生医療」に関する最新の臨床応用、「ロボット手術(da Vinci)」の最新治療実績等が報告され、夕方からの、世界遺産の「二条城」でのカクテルパーティーは、琴や尺八の演奏で伝統文化に触れながら、多くの外科医の交流の場となりました。



※写真は、開会式でご挨拶をされている、第40回国際外科学会世界総会会長の山岸久一先生(京都府立医科大学前学長)

最終日は、心臓血管外科、眼科、形成外科、美容外科等の最新治療が報告されました。

また、市民公開講座でも、これからの高齢化社会に向けての最新の日本の取り組みについてメッセージを発信されました。

開催報告

第70回日本臨床眼科学会

2016年11月3日(木・祝)～6日(日)

11月3日(木・祝)から6日(日)の4日間の会期中、第70回日本臨床眼科学会が開催。名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学分野の主催で実施され、国立京都国際会館を主会場に行われました。



今回は、「Ophthalmology for Tomorrow - 明日への眼科学」をメインテーマに、国内の講師による特別講演や海外からゲストを招いての招待講演、海外招待者によ

る「World Retina Summit 2016」を含む、20におよぶシンポジウムを開催。11月4日には、山川良治教授(久留米大学)が壇上に上がり「眼科手術のリスクマネジメント」と題して講演。11月5日に行われた講演では、「臨床所見から考える網膜硝子体疾患の病態と治療」とのタイトルで池田恒彦教授(大阪医科大学)による特別講演が実施されました。



また、招待講演では、Peng T Khaw教授(Moorfields Eye Hospital and UCL Institute of Ophthalmology)と、Napoleone Ferrara教授(University of California, San Diego)の2名の講演も実施。4日間で約8,500名を超える参加者を迎え、盛況のうちに閉会しました。

Pick up

第28回全国車いす駅伝競走大会

2017年3月12日(日) 11時30分～

2017年3月12日(日)、「第28回全国車いす駅伝競走大会」が開催されます。この大会は、障害がある方の社会参加の促進とスポーツの振興を図り、障害者に対する理解と認識を深めることを目的として1990年から開催されています。国立京都国際会館前を11時30分にスタート

し、西京極陸上競技場までの21.3kmを、全国の車いすランナーが1区から5区までタスキをつないで早春の都大路を走り抜けます。毎年、高円宮妃殿下が選手に励ましのお言葉をかけられています。



開催報告

MPI Task Force Meeting

2016年12月8日(木)

MPIが企業ミーティング・インセンティブツアーのプランニングに際し、訪問先やサプライヤーに対してアドバイスができるチームをMPIの中に初めて立ち上げることとなりました。MPI



理事メンバーによるミーティングは京都国際会館のRoom560で行われ、続いて館内視察、その後市内を視察されました。理事メンバーの皆様は、メインホールの内観や会館の美術品等に感銘を受けておられました。

「新しいものと古いものとのコントラストが魅力的だ」と評価していただいた一方、「収容能力が大きいホテルが少ない。世界にはまだ京都を知らない人も多いので発信も必要だ」というご意見もいただきました。

ミーティングの専門家に対して会館の特長や強みをPRできたとともに改めて課題も発見でき、将来の会館での会議開催につながる有意義な機会となりました。

MPIとは…Meeting Professional Internationalの略。世界24か国に90のチャプターとクラブを持ち、ミーティングの専門家17,000名以上が加盟する世界最大規模の国際非営利団体

会館

裏ばなし

第4話

「会館ロゴマークの由来」



▲会議場Room A

当館を代表する会議場であるRoom Aは、まさにロゴマークを象徴しています。

皆さんは、会館のロゴマークが何を表しているかご存知ですか？円形は日の丸と地球、馬蹄形は会館の会議場Room Aの議席を表現しており、外周は統合のシンボルです。このマークには、「世界を一つに結ぶ」という願いが込められているのです。

また、庭園の池の片隅にロゴの形をしたスペースをデザインしたり、会館の正面にある街灯も実はロゴマークをモチーフに作られています。会館にお越しの際は、いろいろな所に隠れているロゴをぜひ探してみてください。



ニューホール建設工事 インフォメーション vol. 2

新しいホールの建設工事に向けて!

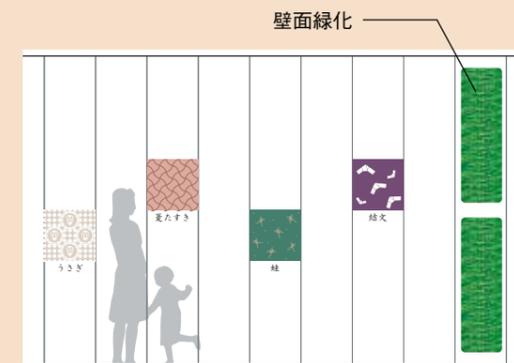
国立京都国際会館では、2018年6月の完成に向けて、2,500人収容の新しいホールの建設を進めています。

現地では、ニューホール建設の為に工事現場事務所や、仮囲いも設置されていよいよ本格的な工事の始まりです。

今回の工事現場に設置される仮囲いには、環境に配慮した壁面緑化、さらには、京都らしい風情ある雰囲気を出すため、和風柄模様を施したパネルを採用しております。また、地下鉄からの連絡口周辺には、竹垣模様を背景に新しいホールの完成イメージパースや、国際会館周辺の名所の写真も四季に応じて貼り替えていく予定です。完成までの1年半近くの間、工事現場の安全を確保する為の仮囲いとは言え、国の工事ここまで「京都らしさ」にこだわって頂けるのは京都ならではの事だと感じます。皆様も機会があれば一度ご覧ください。

本格的な工事の開始により大型車両等の通行が増加し、近隣の皆様にはご迷惑をお掛けいたしますが、安全第一で工事を進めてまいりますので、何卒、ご理解賜りますようお願い致します。

※引き続き、このコーナーでは、ニューホール建設工事の様子を紹介する予定です。



壁面緑化と和風柄模様▲



完成イメージパースと竹垣模様▲

## 開催予定イベント・会合一覧

2017年1月1日現在

催事名	日程	人数
第20回日本病態栄養学会年次学術集会	1月13日～15日	6,000
公益社団法人日本青年会議所2017年度京都会議	1月19日～22日	14,000
アトピー性皮膚炎治療研究会第22回シンポジウム 第7回日本皮膚科心身医学会	1月28日～29日	100
第3回京都リハビリテーション医学研究会学術集会	2月 5日	450
第55回関西財界セミナー	2月 9日～10日	750
第8回「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式 京都環境文化学術フォーラム	2月11日	1,000
第51回糖尿病学の進歩	2月17日～18日	3,000
<b>Pick up イベント</b> (P5参照) 第28回全国車いす駅伝競走大会	3月12日	200
第32回日本審美歯科協会総会学術講演会	3月18日～19日	250
2016 TPM Awards Ceremony	3月23日～24日	300
第7回 言の葉大賞®授賞式&懇親会	3月25日	350
第63回(平成29年春)宝松庵茶会	4月23日	600
32nd International Conference of Alzheimer's Disease International	4月26日～29日	3,000
国際ロータリー第2650地区 地区研修・協議会	4月30日	1,300
第55回IBMユーザー・シンポジウム 京都大会	5月18日～19日	1,000
第60回全国私立保育園研究大会	6月 7日～ 9日	2,500
平成29年度公益社団法人京都府看護協会定時総会	6月17日	550
第14回 国際通信学会アジア太平洋国際会議	6月25日～27日	150

※参加者100名以上の会議



2017 Winter号の表紙

## 未来



1966年、日本で最初の国際会議場としてその歩みをスタートさせました。50周年という節目の年を経て、2018年にはニューホールも完成予定。未来に向けて新たな一歩を踏み出した国立京都国際会館のイメージを表現しました。

## ICC Kyoto

Kyoto International Conference Center

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館  
 住所 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池  
 TEL 075(705)1218  
 FAX 075(705)1100  
 E-mail com@icckyo.or.jp  
 URL http://www.icckyo.or.jp/

国立京都国際会館

検索

©All right reserved - Kyoto International Conference Center